

2024年度 入学式を挙行

輝かしい未来への第一歩

4月上旬、各設置校において2024年度入学式が行われました。
新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

2024年4月8日

大学・大学院

2024年度二松学舎大学・大学院入学式が文京シビックホール・大ホールで挙行され、あわせて871名が入学した。本年度は来賓、保護者も参加し、新入生を祝福した。

佐藤晋学長は入学許可宣言に続く式辞で、本学第三代舎長で今年7月に発行となる新一万円札の肖像に採用された渋沢栄一の著書『論語と算盤』の中から学問と社会の実務について「学問とは地図であり、社会での実践は実地を歩くことである」と例に挙げ、世の中の本質的な仕組みや動きを体系化、理論化してくれている、さまざまな

学問が地図のように進むべき方向性を示してくれることになると学ぶことの大切さを訴えた。

また、水戸英則理事長は祝辞で、大学4年間で自身の価値観や生き方を形作っていく上で最も大事な時期の一つとしたうえで、①多様性（ダイバーシティ）の尊重、②主体的に学ぶ姿勢、③社会とのつながりを意識することの大切さを述べ、本学への入学を祝福した。

新入生代表の宣誓は、国際政治経済学部国際政治経済学科の杉本琉貴さんが行い、大学生活への決意を述べた。



新入生代表 杉本琉貴さん



祝辞を送る
水戸英則理事長

真新しいスーツを身にまとい、少し緊張気味な新入生たちは、終始真剣な表情で式典に参加。期待と不安をにじませつつも、これから始まる新たなキャンパスライフへの希望あふれる式典となった。



2024年4月8日

附属高校

附属高等学校第77回入学式が日本教育会館一ツ橋ホールで挙行され、昨年を上回る288名の新入生が附属高等学校の新たな仲間に加わった。

各学級担任から新入生の名前が呼ばれると、緊張しながらも一人ひとりが元気に返事・起立した。

鵜飼敦之校長は、入学許可宣言後の式辞で、高校3年間で次のステージに向けて努力を始めるための大切な時期であること、またこの3年間で自分にしかない大きな「翼」を育てほしいとした上で、①凡事徹底を図ること（当たり前のことを

当たり前に行えるようにすること）、②授業や特別活動に一生懸命取り組むこと（学習、部活動、行事に全力を傾け、三兎を追うこと）を挙げ、高校生活を通してお互いを高めあう人間関係を築いてほしいと新入生への期待を語った。

新入生代表として平田稟さん（1年G組）が「誓いの言葉」を、在校生代表として生徒会長の坂口祐輝さん（3年B組）が「歓迎の言葉」を述べた。

父母の会会長、松友会会長、保護者、教職員が見守る中、新入生たちは新たなスタートを切った。

式典後には、学級担任の紹介があり、学年主任から入学のお祝いとエールが送られた。

新入生代表
平田稟さん



2024年4月9日

附属柏中学校・高校

附属柏中学校第14回、高等学校第56回入学式が体育館で行われ、中学校95名、高校362名が入学した。校内の桜は新入生を待ちわびていたかのように満開となり、まるで新入生を祝福するかのようだった。

七五三和男校長は入学許可宣言後の式辞で、中高の時期は人生の大切な基礎が作り上げられる時期とした上で、①学習に積極的に臨むこと、②生活習慣を確立し、規律を守ること、③目標を明確にすること、④国際社会に貢献する人間としての素養を身につけること、⑤お互いを高めあう、

真の友人を作ることを挙げ、新生活への期待を語った。また、夢を持つことの大切さを述べ、渋沢栄一の言葉「夢七訓」を贈った。

中学校代表の脇坂桃花さん（1年B組）は友達と過ごす時間を大切にし、勉強や行事に積極的に取り組みたいと意気込みを述べた。また、高等学校代表の古谷桜さん（1年6組）は、3年間の高校生活でたくさんのことを学び自立した人間を目指したいと誓いの言葉を述べた。

式典後には各クラスでホームルームを行い、担任の先生や新しい仲間との時間を過ごした。教室の窓から見える校内の桜は新生活の始まりを爽やかに彩っていた。



中学校・新入生代表 脇坂桃花さん



高校・新入生代表 古谷桜さん

学長就任挨拶

二松学舎大学 学長

佐藤 晋



このたび学長に就任しました佐藤晋です。今後4年間、大学の健全な運営に努めてまいりますので何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、教育機関としての大学の使命は学生の育成にあります。本学の建学の精神でも「社会における有用な人材を育成する」ことが掲げられています。本学は創立以来147年の歴史において、多くの教員を世に送り出すなど、本学の「育合力」は社会的に高く評価されてきました。

一方、現在の日本は、AIなどの先進技術が急速に普及し成長の兆しを見せているものの、高齢化や急激な人口減少といった問題も抱えています。また、GDPの国際順位の低下など、目を外に向けると日本の国際的な地位の低下には著しいものがあります。こうした状況は今世紀初めの状況とは大きく異なっており、今後、たとえば2050年を見据えれば、ここまでの四半世紀で見られた変化以上の大きな変化が生じるであろうことは容易に想像できます。今後の社会において必要とされる人材とは「変転する社会

の中で生じてくるさまざまな状況に向き合い、自ら考え行動することにより良く対応できる人物」ではないでしょうか。

そうした人材を育成するためには以下の2点が不可欠です。一つ目として「常に実際の社会がどのように変化していくのかについての高度な研究」、二つ目に「来たるべき社会に適応するために必要な能力の教育」です。これを言い換えると「実践的教育」の必要性となります。具体的には、カリキュラム上で実践的なPBL（課題解決型学習）授業や真に能力開発に役立つインターンシップを充実させていきたいと考えています。

このようにして、さまざまな理論的学習で得た知識を常に実際の現場で試してみることを通じて、学生それぞれが「実践力」を高めていけるようにしてまいります。

大学4年間でこうした能力を学生の皆さんが身につけて社会に巣立っていけるよう、教職員一丸となって支援していく所存です。皆様のご協力とご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新1年生の新学期がスタート！

4月に入り、各設置校の学生・生徒たちの新生活がスタートしました。新入生歓迎会やガイダンス&オリエンテーションの様子を一部紹介します。

附属高校
ガイダンス&
オリエンテーション大学
新入生歓迎式典

二松学舎大学のクラブやサークルが一堂に会して新入生に活動をPRしました！



高校生活の相棒iPadのレクチャー、二松学舎の歴史、高校生活での諸注意などを学びました。4月中旬からは、新入生に向けたクラブ紹介が行われました。

高校

新入生歓迎会では行事や委員会、部活、同好会などの紹介を行いました。

附属柏中学・高校
ガイダンス&
オリエンテーション

中学校

中学3年生が教室の場所や学校生活のイロハを後輩に伝授。



人事

2024年4月1日付

大学・大学院

■ 学長	佐藤 晋 教授
■ 副学長	福島 一浩 特別招聘教授（再）
	押野 洋 教授
■ 国際政治経済学研究科長	飯田 幸裕 教授
■ 国際日本学研究科長	堀野 正人 特別招聘教授
■ 国際政治経済学部長	高岸 直樹 教授
■ 学務局長	須藤 和敬 教授（再）
■ 図書館長	小山 聡子 教授
■ 東アジア学術総合研究所長	町 泉寿郎 教授
■ 国際交流センター長	中垣 陽子 教授
■ 教職課程センター長	矢持 昌也 特別招聘教授（再）
■ キャリアセンター長	小久保欣哉 教授

附属柏中学校・高等学校

■ 附属柏高等学校長 兼附属柏中学校長	七五三和男 教諭（再）
■ 附属柏高等学校副校長 兼附属柏中学校副校長	島田 達彦 教諭（再）
■ 附属柏高等学校教頭	青木 英明 教諭
■ 附属柏中学校教頭	坂詰 弘徳 教諭

新任教職員

大学教員

文学部

■ 吉丸 雄哉 教授（国文学科）	専門：日本近世文学
■ 橋本 秀美 教授（中国文学科）	専門：中国語・経学史・漢語古典文献学
■ 奥川 育子 准教授（国文学科）	専門：日本語学（談話と文法）、日本語教育、日英対照言語学
■ 長谷川豊輝 講師（国文学科）	専門：日本上代文学
■ 楊 駿驥 講師（中国文学科）	専門：中国現代文学・文化、比較文化、メディア論、中国語

国際政治経済学部

■ 藤井 宏次 准教授（国際経営学科）	専門：データサイエンス・理論物理学
■ 安井 繁宏 准教授（国際経営学科）	専門：数理モデル解析、理論物理学
■ 町田なほみ 特別任用准教授（国際政治経済学科）	専門：バイリンガル教育（日英）

教職課程センター

■ 萩庭 圭子 特別招聘教授	専門：特別支援教育
■ 荒井 俊郎 特別任用教授	専門：国語科教育法

大学職員

■ 税所 博 参与（キャリアセンター事務部長）	
■ 生形 大助 参事（総務・人事部副部長）	
■ 熊澤 俊 参事（教学事務部教務課長）	
■ 高橋 幸菜 書記（教学事務部入試課）	
■ 瀧澤 千佳 書記（教学事務部教務課）	
■ 志水 聡 書記（教学事務部学生支援課）	

附属高等学校教員

■ 兼子 航 教諭（担当科目：数学）

附属柏高等学校教員

■ 金井菜都実 教諭（担当科目：家庭科）
■ 佐藤 良祐 教諭（担当科目：数学）
■ 清水 大史 教諭（担当科目：国語）

2024年度入学者 入試結果

大学・大学院

2024年度入学試験は、学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜および特別入試を実施した。

総合型選抜では、志願者の能力・適性や学習意欲、目的意識等の評価を重視し、文学部では新たに自己推薦型と古典鑑賞型の入試を導入するなど、多様な方式で入試を行った。

一般選抜では、3科目受験型のS方式（入試奨学生選抜型）や2科目受験型のA・B・G方式（G方式は文学部のみ）、後期1科目受験型のD方式、C方式（大学入学共通テスト

利用）に加え、新たに文学部でR方式（小論文型）、国際政治経済学部でE方式（英語外部試験利用型）を導入した。

文学部は522名、国際政治経済学部は295名、計817名の入学者を得た。（編入学者除く）

大学院入試は、文学研究科・国際政治経済学研究科・国際日本学研究科において、秋季・春季試験を実施し、計41名の入学者を得た。なお、国際日本学研究科では2024年9月入学者の試験を6月に予定している。

大学【文学部】

試験種別		志願者	合格者
学校推薦型選抜		162	160
総合型選抜	I期(文章読解型)	194	111
	II期(自己推薦型)	61	48
中国文学科総合型 (書道実技型/古典鑑賞型)		5	5
一般選抜	S方式 (入試奨学生選抜型)	168	57
	A方式(得意科目型)	489	197
	B方式(前期2科目型)	74	31
	R方式(小論文型)	25	11
	G方式(現代文重視型)	213	92
	C方式 (大学入学共通テスト利用 前期)	379	157
	C方式 (大学入学共通テスト利用 後期)	27	18
	D方式(後期1科目型)	147	68
特別入試	社会人	3	3
	外国人留学生	12	9
	海外教育経験者	1	0
合計		1,960	967

大学院【文学研究科】

課程	専攻	志願者	合格者
博士前期課程	国文学	13	7
	中国学	19	10
	計	32	17
博士後期課程	国文学	1	0
	中国学	12	9
	計	13	9
合計		45	26

大学院【国際政治経済学研究科】

課程	専攻	志願者	合格者
修士課程	国際政治経済学	23	7

大学院【国際日本学研究科】

課程	専攻	志願者	合格者
修士課程	国際日本学	63	20

附属高校

2024年度入試も、定員250名を7つの入試カテゴリーで募集した。

外部相談会、中学校や塾訪問、授業見学会や部活動体験会などを通して、学校説明会に受験生を誘導。ま

た、ホームページに学校紹介動画を掲載し、随時追加することで、受験生の興味・関心の維持を心がけた。

この結果、志願者数は昨年を上回り、288名の入学者を迎えることができた。

附属柏高校

志願者数（内部進学者含む）は1,237名で、昨年838名に対し399名増の148%となった。推薦基準点は昨年と同様だが、2024年度入試は、進学コースの併願推薦の募集を中止す

るも、各コースでの「推薦基準点の加点措置」を行うことにより、志願者数は増加した。また、一般入試の受験者数も近年では一番多い128名（昨年比108%）となった。これらの結果、362名の入学者を迎えることができた。

附属柏中学校

昨年度に引き続きグローバル探究コース、総合探究コースの2コースでの募集を行った。志願者数は646名と昨年度比117%であった。

第一志望入試は作文、算数、英語から2科目を選択し、全員に自己アピールと面接を行う入試で、

志願者49名、合格者42名となった。

コース別志願者は全体でグローバル探究249名、総合探究328名であり、入学者はグローバル探究31名、総合探究64名であった。グローバル特待候補者は58名でA奨学生29名、B奨学生29名であった。

大学【国際政治経済学部】

試験種別		志願者	合格者
学校推薦型選抜		123	123
総合型選抜	I期(読解力総合型)	37	33
	I期(英語資格型)	27	26
	II期(自己アピール型)	39	32
	III期(課題解決型)	19	14
一般選抜	S方式 (入試奨学生選抜型)	54	30
	A方式(得意科目型)	113	68
	B方式(前期2科目型)	97	57
	E方式 (英語外部試験利用型)	64	39
	C方式 (大学入学共通テスト利用 前期)	135	73
	C方式 (大学入学共通テスト利用 後期)	7	5
	D方式(後期1科目型)	53	26
特別入試	社会人	0	0
	外国人留学生(秋季)	63	20
	外国人留学生(春季)	72	14
	海外教育経験者	3	2
合計		906	562

附属高等学校

	入試区分	志願者	受験者	合格者
推薦入試	A推薦(単願)	160	160	160
	B推薦(併願)	43	37	37
	C推薦(単願)	23	23	7
一般入試	一般Ⅰ	33	32	7
	併願優遇Ⅰ	246	233	233
	一般Ⅱ	47	35	10
	併願優遇Ⅱ	99	71	71
	合計	651	591	525

附属柏高等学校

入試区分		志願者	受験者	合格者
前期Ⅰ	A推薦	115	115	115
	B推薦	634	626	626
	一般	57	55	9
前期Ⅱ	B推薦	290	277	277
	一般	64	63	29
後期	一般	10	10	5
合計		1,170※	1,146	1,061

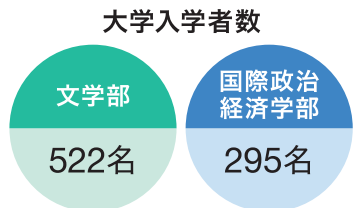
※内部進学者67名を除く

附属柏中学校

入試区分	志願者	受験者	合格者
第一志望入試	49	49	42
総合探究①	183	165	125
グローバル特待①	121	104	63
グローバル特待②	128	54	21
総合探究②	145	31	19
全コース入試	20	18	7
合計	646	421	277

2024年度 大学入学者の出身高等学校等所在地マップ

二松学舎大学への2024年度入学者数がまとまった。ここでは都道府県別で入学者数を紹介する。国内の高校からは、関東を中心に全国33都道府県から集まった。



2024年度入学者の出身高等学校等の詳細は下記QRへ



九州・沖縄地方

福岡県	2	1
熊本県	1	—
大分県	2	—
宮崎県	1	—
鹿児島県	2	2
沖縄県	3	1

その他	5	1
外国の高校	8	27

北陸・中部・東海地方

新潟県	3	—
富山県	1	—
石川県	1	—
山梨県	3	2
長野県	5	4
岐阜県	—	1
静岡県	7	2
愛知県	—	1

北海道・東北地方

北海道	4	4
青森県	2	1
岩手県	2	1
宮城県	2	—
山形県	2	—
福島県	3	—

関東地方

茨城県	36	18
栃木県	4	1
群馬県	10	2
埼玉県	62	38
千葉県	150	75
東京都	147	92
神奈川県	45	20

中国・四国地方

山口県	2	—
徳島県	—	1
香川県	2	—

近畿地方

大阪府	1	—
奈良県	2	—
和歌山県	2	—

二松学舎教育研究振興資金の2023年度入金額と資金の使途について

本学では2007年12月から「二松学舎教育研究振興資金」の募金活動を開始し、皆さまのご協力により、2023年度では30,716千円（右表（B）欄）のご寄付をいただきました。本学の教育研究活動、教育環境整備および学生支援に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

ご寄付いただきました寄付金は、学内で検討した結果、2022年度からの繰越金100,674千円（右表（A）欄）と合わせて、資金の使途を次のように決定しましたので、お知らせいたします。（残額は全て2024年度へ繰り越します。）

これからもご協力のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

寄付金の主な使途（用途別）

- 1 大学の教育環境整備＝全額2024年度へ繰越
- 2 附属高校の教育環境整備＝全額2024年度へ繰越
- 3 附属柏高校の教育環境整備＝全額2024年度へ繰越
- 4 附属柏中学校の教育環境整備＝全額2024年度へ繰越
- 5 学生・生徒の奨学金の基金＝学校法人二松学舎奨学基金（第3号基本金）への組み入れ
- 6 被災学生・経済的困窮学生への支援＝経済的困窮学生への奨学金として支出
- 7 用途を指定しない＝学校法人二松学舎奨学金（第3号基本金）への組み入れ、奨学金として支出、残額は2024年度へ繰越

内訳表

（単位：千円）

用途	2022年度からの繰越(A)	2023年度の寄付金(B)	合計(A)+(B)	2023年度取崩額(C)	2024年度への繰越(A)+(B)-(C)
大学の教育環境整備	115	4,095	4,210	0	4,210
附属高校の教育環境整備	17,719	3,315	21,034	0	21,034
附属柏高校の教育環境整備	1,545	90	1,635	0	1,635
附属柏中学校の教育環境整備	1,626	350	1,976	0	1,976
奨学金の基金	320	285	605	605	0
被災学生・経済的困窮学生支援	0	157	157	42	115
用途指定なし	82,248	22,637	104,885	38,159	66,726
小計	103,573	30,929	134,502	38,806	95,696
振替手数料等	△ 2,898	△ 213	△ 3,111	－	△ 3,111
合計	100,674	30,716	131,391	38,806	92,585

（注）金額は千円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合があります。

人事

定年退職

2024年3月31日付

- 文学部 林 謙太郎 教授
増田裕美子 教授
- 国際政治経済学部 岩崎 愛一 教授
- 教職課程センター 岡田 哲也 教授
- 事務職員 逆井 勇 参与
大淵 俊明 参事
平田 恵 参事

称号授与

舎友

2024年4月1日付

- 教職員として20年以上勤務した者 大淵 俊明 氏
平田 恵 氏

※舎友の称号は、法人役員として1期以上在職した者、法人評議員として2期以上在籍した者、教職員として20年以上勤務した者、大学・高等学校の役職者として通算5年以上在職したものなどに贈られる。

「二松学舎教育研究振興資金」(寄付)のお願い

学校法人二松学舎では、「二松学舎教育研究振興資金」の寄付金募集を行っています。寄付金は使途を指定することができ、さらに、税制上の優遇措置が受けられます。（確定申告のお手続きが必要です。）

お申し込み方法の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。ホームページからクレジットカード・ネットバンキング等で直接申し込みが可能です。スマートフォンで右下のQRコードから簡単にアクセスできます。または、下記にご連絡いただければ、専用振込用紙をお送りいたします。

何とぞ、募金活動の趣旨をご理解いただき、格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



お知らせ

学校法人二松学舎への多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。ご寄付賜りました個人および企業・団体・法人のご芳名を、学校法人二松学舎のホームページ「寄付者芳名録」に掲載しておりますのでご確認ください。なお、お名前の掲載を辞退されたい場合は、お手数ですが企画・財務課までご連絡ください。

企画・財務課

☎ 03-3261-1298（月～金 9:00～16:30）
✉ k-zaimu@nishogakusha-u.ac.jp

学校法人二松学舎 R&I社の格付け「A-（安定的）」を維持

学校法人二松学舎は、3月28日付で株式会社格付投資情報センター（R&I）から、発行体格付け「A-（安定的）」の格付けを取得した。同評価は2006年から19年連続となる。

今回は安定的な学生・生徒数の確保や附属柏高校の進学実績向上、良好な財務状況、新たな長期ビジョン「N'2030 Plan」の着実な実施状況について高い評価を得た。

大学資料展示室「企画展」のお知らせ

大学資料展示室では、定期的に企画展を開催し、本学所蔵の貴重資料、創立者・三島中洲や、漢学塾二松学舎で学んだ夏目漱石など二松学舎ゆかりの人々の遺墨遺品や、和書、漢籍など、貴重な資料を順次展示している。2024年度の企画展は以下を予定。

名称	会期
「作家の原稿」展	5月20日（月）～7月3日（水）
「和本の世界」展	7月18日（木）～9月7日（土）
「石川忠久」展	10月1日（火）～11月23日（土）
※平常展示	12月9日（月）～2025年1月28日（火）
「三島中洲と近代 其十」展	2025年2月17日（月）～4月19日（土）

お問い合わせ 学校法人二松学舎 大学資料展示室
☎ 03-3263-6364（附属図書館）
開室日時：企画展開催期間の月～土（10:00～16:00）
閉室日：附属図書館（九段）に準じる

13階レストラン「Café sora」が営業再開

コロナ禍で2020年3月の営業を最後に休業していた九段1号館13階レストラン「Café sora」（運営：株式会社レバスト）が5月7日より営業を再開した。営業時間は平日（月～金曜日）の11時～14時で、メニューは日替りランチセット、ハンバーグセット、カレーセット（セットはライス・サラダ・デザート・ワンドリンク付）で1,300円（税込み）。一般の方の利用も可。

お問い合わせ

総務・人事課
☎ 03-3261-7407（月～金 9:00～16:30）

OPEN CAMPUS 2024

2024年度は下記日程でオープンキャンパスを開催予定です。ぜひ、お越しください！

6.23
sun

7.21
sun

8.4
sun

8.25
sun

詳細は受験生サイトをご確認ください！
入試課
☎ 03-3261-7423
（月～金 9:00～16:30）



11.4
mon

2025
3.22
sat

学園祭同日開催

※日程は変更になる場合があります。





3/20 大学・大学院

学位記授与式
会 場：文京シビックホール
大ホール
卒業者：665名
修了者：21名



4月からはそれぞれが選んだ道を歩き始めますが、この4年間で鍛え上げた「国語力」と、それぞれが専門分野で得た学びを生かし、さまざまな形で社会に貢献するべく、これからも励んでいきたいと思ひます。
卒業生代表 倉井 宏夏



3/1 附属高校

第74回卒業証書授与式
会 場：日本教育会館
卒業者：264名



高校生活を華やかな彩りでいっぱい思い出と希望を与えてくれたのは同級生の皆です。お互いが支え合い高め合ったからこそ、たくさんの思い出という宝物を手にすることができました。温かい人がたくさんいる、この74期生で良かったと心から思ひます。
卒業生代表 岡田さくら

新たな門出を祝して 2023年度卒業式

二松学舎を卒業する皆さん、おめでとうございます！
3月に各設置校で行われた卒業式の様子をお届けします。



3/2 附属柏高校

第53回卒業証書授与式
会 場：体育館
卒業者：407名



高校卒業というひとつの節目を迎え、一人ひとりが決めた進路に向かって、新たな一歩を踏み出します。これからさまざまな困難があると思ひますが、この高校生活で得た学びを生かし、日々前進していきます。
卒業生代表 小倉 遥香



あっという間の3年間。楽しいことだけではなく大変な時もありましたが、互いを高め合える仲間と共に過ごした3年間の学校生活をこの二松柏で過ごすことができ、本当に幸せでした。
卒業生代表 中野 昂

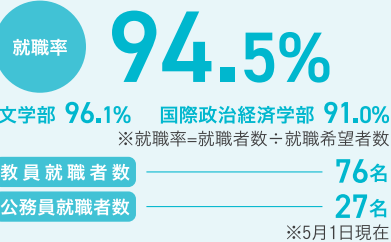


3/19 附属柏中学校

第11回卒業証書授与式
会 場：体育館
卒業者：71名

2023年度卒業生の進路報告

大学



キャリアセンター、教職課程センターでは各種支援講座等を通じて「人間力」の向上、自ら考え行動できる能力の育成に注力している。2023年度卒業生の進路の特徴としては、教員就職者がここ数年で一番多く、関東を中心に8自治体で教員採用試験に合格した。公務員就職者数は例年並みとなった。近年の傾向として、どの業界も人材確保が課題で学生有利な状況が続いているが、どの業界も「人物重視」の採用となる。引き続き、学生の希望進路の実現に向けたサポートを行っていく。

附属高校

附属高等学校では、生徒一人ひとりの適性に合わせたきめ細かいサポートを行っている。特に一般選抜で受験に臨む特進／理系コースの生徒たちは、学級担任との面談で出願大学を慎重に決定。2023年度は国公立の後期まで挑戦する生徒もいた。

附属高等学校
2023年度卒業生の主な合格実績
卒業者：264名

国公立大学	3名
金沢 埼玉県立	
私立大学	324名
東京理科 学習院 明治 青山学院 立教 中央 法政 成城 明治学院 獨協 國學院 武蔵 日本 東洋 駒澤 専修 他多数	
併設大学	48名
二松学舎	
短大・専門学校	21名

自分の進みたい道が決まっている生徒は、学校推薦型選抜や総合型選抜で年内に合格を決める生徒も。なかには、併願可能な大学を選び、合格を確保したうえで一般選抜に臨む生徒もあり、入試制度を上手に活用する姿が見られた。

附属柏高校

附属柏高等学校では、生徒・担任・保護者と適切な情報共有をし、主体的にキャリアデザインする生徒を育てることを目標としている。

進路指導計画にある「二松柏キャリアデザインプログラム」を各教員が理解し指導を行う体制を整えている。

その結果、2023年度の卒業生407名の進路状況の内訳は、大学366名、短大3名、専門学校19名、その他19名となり、大学への進学割合は過去5年間で最も高い89.9%となった。

附属柏高等学校
2023年度卒業生の主な合格実績
卒業者：407名

国公立大学	9名
東京学芸 東京都立 国立看護 千葉 千葉県立保健医療 静岡 愛知県立 愛知県立芸術	
私立大学	356名
早稲田 慶應義塾 上智 東京理科大学 学習院 中央 青山学院 明治 法政 東京女子医科 立教 関西 同志社 立命館 他多数	
併設大学	44名
二松学舎	
短大・専門学校	22名

設置校NEWS

このコーナーでは、大学、附属高等学校、附属柏中学校・高等学校でのさまざまな行事や学生・生徒の皆さんの様子をピックアップしてお届けします！

大学

2024年3月

文学部でさまざまなシンポジウムを開催

3/2 漱石アンドロイドシンポジウム

二松学舎大学大学院文学研究科と大阪大学大学院基礎工学研究科共催のシンポジウム「ロボット学者はなぜ小説を書くのか？ 漱石アンドロイドと人間学としてのロボット研究」が、九段1号館中洲記念講堂で開催された。

第一部は「なぜ人間を考えるためにロボットを作るのか？」というテーマで、ロボット研究者として第一線で活躍する大阪大学石黒浩教授と立命館大学谷口忠大教授が登壇。

第二部では学内外から集まった文学・美学・比較文化の研究者に夏目漱石の孫であり、アンドロイドの声を提供している夏目房之介氏を交え「ロボット学者はなぜ小説を書くのか？」というテーマで多角的な討論が行われた。



左から、本学 谷島貴太准教授、立命館大学 谷口忠大教授、大阪大学 石黒浩教授、漱石アンドロイド

3/10 日中文化のトランスナショナルコミュニケーション
ーコンテンツの越境的流通を中心に

場所：九段1号館201教室
主催：二松学舎大学大学院
国際日本学研究科

文学、漫画、ゲームなど、さまざまなコンテンツが日中間で越境し、いかに現代社会に影響を及ぼしているのかをテーマに討論した。

3/16 三国志ワールドの展開
その時間と空間の広がり

場所：九段1号館中洲記念講堂
(オンライン併用)

主催：二松学舎大学文学部

「三国志」やそれをめぐる文化が中国と日本においてどのように展開し、受容されているかをその背景と共に討論した。

大学

2024年2月29日

教員対象FD講演会を実施

FD (Faculty Development) とは、教育内容・方法等を改善し、向上させるための組織的な取り組みのことを意味する。

2023年度のFD研修会は2月29日に実施した。午前中の全学FD研修会では、武藤久慶氏（文部科学省初等中等教育局 修学支援・教材課課長 学校デジタル化プロジェクトチームリーダー）を講師に迎え講演会を行った。GIGAスクール構想を中心とした初等中等教育段階の現状についての講演は、今後の本学におけるICT教育環境の整備の必要性について参加者の理解を深める講演会となった。

午後は大学院で授業を担当する教員を対象とした大学院FDが行われ、留学生の受け入れとそれに関わる諸課題や改善案を共有した。



講師 武藤久慶氏

附属高校

2024年2月21日

小雨の中の持久走大会

小雨降る曇り空の中、皇居の外周5kmを走る校内持久走大会（1・2年生）が開催された。この大会も今回で18回目を迎え、本校の伝統的な行事のひとつとなっている。

生徒たちは、体育の授業で走ったタイムをもとに6グループに分かれ時間差で桜田門をスタート。小雨が次第に強くなるなか、生徒たちはゴールを目指して力強く駆け抜けた。特に先頭集団の生徒たちは、ペースを落とすことなく走り続け圧巻の走りを見せた。ゴールした生徒たちは、走り切った達成感と安堵の表情で、学校へと戻っていった。



ゴールを目指す生徒たち

附属柏中学校

2024年3月10日～30日

セブ島語学研修

中学2年生22名が、フィリピン・セブ島語学研修に参加した。

生徒たちは寮を備えた学校で過ごし、一日、50分×7コマのスケジュールで、現地の先生によるマンツーマン授業や少人数のグループ授業に参加した。

最初は緊張していた生徒たちも、慣れてくると現地の先生との会話を楽しむ様子などが見られ、友達との会話でも自然と英語が出てくる生徒もいた。

週末には市内観光やリゾートプールでレジャーを楽しむことも。また、セブ島の孤児院で子どもたちと交流し、フィリピンの文化や現状を知る機会が設けられるなど、多くの学びを得た20日間となった。



セブ島語学研修修了式

附属柏高校

2024年3月23日

英字新聞甲子園で全国2位を受賞

グローバル教育情報センター主催の「英字新聞甲子園」の第7回表彰式が3月23日に行われ、本校1年生（受賞時）21名が制作した英字新聞が全国2位に輝いた。

「英字新聞甲子園」は、企画、取材、記事制作、編集などすべての工程を生徒だけで行い制作した英字新聞を全国の高校から募集し、その成果を競うもので、本校としては2年連続受賞の快挙となった。

今回、新聞の1面で取り上げたテーマは「Gender Equality at Schools in Japan」。学校教育に潜むジェンダー問題に焦点を当てた。生徒たちは新聞制作を通して、英語力はもちろん、世界や日本の問題点など、多くの気づきを得ることができた。



受賞を喜ぶ生徒たち

地域・産学連携

鎌倉市・二松学舎大学連携講座
「鎌倉と万葉集」を開催

2024年3月9日

主催：二松学舎大学 協力：鎌倉市

3月9日、鎌倉市と二松学舎大学の連携講座「鎌倉と万葉集」が鎌倉生涯学習センターで開催された。

本学と同市は、教育とまちづくりの発展に寄与することを目的として、2019年11月に連携協定を締結。今回のイベント開催の運びとなった。

国内外の多くの人が訪れる魅力的な地である鎌倉は、『万葉集』と深いつながりがある。そんな鎌倉と『万葉集』の関係を本学文学部で『万葉集』を研究する塩沢一平教授が解説した。

鎌倉にまつわる万葉歌を中心に、『万葉集』で語られる鎌倉という地名の由来、『万葉集』研究のパイオニア・仙覚についてなど、さまざまな観点から『万葉集』の魅力を語った。

当日は100名以上の参加者が聴講。幅広い年代の方に日本文学と鎌倉の魅力を発信する機会となった。



『万葉集』の魅力を解説



塩沢一平教授



NISHO Activity Report

学業や課外活動に励む学生・生徒を取り上げるこのコーナー。
今回は両附属高校での生物系の研究における取り組みを紹介します。

附属高校 理数科学研究部が2023年度
「ちよだ生物多様性大賞」で入賞

「ちよだ生物多様性大賞」は生物多様性に関する優れた活動を表彰する千代田区独自の制度で、本校理数科学研究部の研究「皇居のお濠・千鳥ヶ淵の水質調査と微細生物の観察」が入賞した。約8年前から代々引き継がれてきた研究で、延べ30名の部員がこの研究に携わってきた。これまでの研究成果が認められ今回の受賞となった。



表彰式に参加した代表部員4名

附属柏高校 大塚莉心さんが「日本生態学会大会」で
審査員特別賞を受賞

第71回「日本生態学会大会」で、大塚莉心さん（受賞時2年生）の研究「近隣自然環境と学校敷地のはざままで生息する野鳥の生態調査」が高校生ポスター発表の部において審査員特別賞を受賞した。本校の環境や学校施設が野鳥に与える影響を詳細にまとめた研究ポスターが高く評価された。



大塚莉心さん